



定例会概要



報告全文

総務厚生委員会

令和7年度平戸市一般会計補正予算（第10号）
「ふるさと応援寄附金推進事業」

平戸来訪を促す取り組みを

令和7年度平戸市一般会計補正予算（第10号）
こども未来課所管事業全般

子育て世代が求める支援を

令和7年度平戸市一般会計補正予算（第10号）
「ゼロカーボンシティ推進事業」

ゼロカーボンシティの今後の推進は

総務厚生委員会での主な論議

Q 過年度分のポイントは、使用しないと累積していくので、寄附募集と同様、ポイントの利用促進も重要。平戸市への来訪を促し、市内で消費してもらう取り組みも必要ではないか。

A 現在も、ポイント未使用者へ通知し消費を促している。今後は、通知に平戸市の魅力や観光情報などを盛り込み、来訪促進に繋げたい。

総務厚生委員会での主な論議

Q 平戸市では、手厚い子ども子育て支援策を実施しているが、その効果が十分に現れていないようだ。これ以上、出生数を減らさないために、子育て世代の意見を聴き、子育てしやすい環境整備に向けた事業の拡充を図ってほしい。

A 子育て支援は、行政側の意向で事業を展開することが多い。今年度中に実現できるかは不透明だが、子育て関連施設などの担当者に参集いただき、提案を募りながら、市民のニーズに合致した事業の実施を検討したい。

総務厚生委員会での主な論議

Q 再生可能エネルギー設備への地域脱炭素化アドバイザー業務委託について、木質バイオマス熱電併給設備の実証事業を中止したことなどから減額補正するとのことだが、今後の木質バイオマスおよびゼロカーボンシティはどのように推進していくのか。

A 令和8年度、市内の宿泊施設などを中心にニーズを再調査する予定。その結果を踏まえ、木質バイオマスの熱利用に関して、事業の採算性が確保できるか、需要と供給のバランスを精査した上で、今後の推進について判断する。

請願の採択・意見書の提出

- 市民の皆さんから請願があった以下の内容について、各委員会でも審議し意見書を提出しました。
- 地方財政の充実・強化に関する意見書（提出先）衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣
 - 義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書（提出先）衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣

産業建設文教委員会

令和7年度平戸市一般会計補正予算（第10号）
「中小企業等設備投資関連支援事業・6次産業化推進事業」

事業の活用を促すために

令和8年度平戸市一般会計補正予算（第1号）
「産地を支える人材確保推進事業」

農業後継者育成を目指して

令和8年度平戸市一般会計補正予算（第1号）
「漁業と漁村を支える人づくり事業」

フェア出展支援で就業促進を

産業建設文教委員会での主な論議

Q 該当事業や申請がなかったため減額補正しているが、当初予算での件数、制度の周知はどのように取り組んだのか。

A 「中小企業等設備投資関連支援事業」は4件の申請を見込んでいたが、1件の相談を受けるにとどまった。また「6次産業化推進事業」は3件の相談を受けたが、2件は「にぎわいづくり支援事業」に該当、1件は令和8年度申請に向けて進めており、どちらも支出がなかった。制度の概要は、回覧板や商工会議所、商工会の会報、平戸市ホームページで周知した。

Q 事業の活用を図るため交付要綱の見直しが必要ではないか。

A 令和8年度に関係団体と意見交換し、事業者が活用するためには何が必要か、制度の見直しを含め検討したい。

産業建設文教委員会での主な論議

Q 農業後継者育成のため就学経費の一部を支援する「キャリアアップ支援事業補助金」の対象者を、長崎県立農業大学校に限定したのはなぜか。また、次年度以降も支援するのか。

A 近年、平戸市内の高等学校から進学し、市内に就農した実績が複数あり、長崎県立農業大学校を対象校とした。他県へ進学している場合などは、今後調査し検討したい。農業後継者の育成は非常に重要なので、可能であれば次年度以降も引き続き取り組みたい。



広大な敷地で学ぶ長崎県立農業大学校（諫早市）
※写真は長崎県立農業大学校ホームページから

産業建設文教委員会での主な論議

Q 全国漁業就業者フェア（東京・大阪）出展旅費の支援は、就業希望者が事前研修へつながった場合のみ支給することだが、出展期間の旅費負担や休漁など参加へのハードルが高い。事前研修への参加の有無にかかわらず支援すべきでは。

A フェアには1日100人以上が来場し、定置網ブースに1日約10人が訪れた。出展旅費の支援は、平戸市での就業に向けた事前研修参加を促すもの。実績を踏まえ次年度以降の支援方法を検討したい。



令和7年度全国漁業就業者フェアでの定置網ブースの様子